

ADMISSIONS OFFICE

2023

DOSHISHA UNIVERSITY
Voice of AO students



AO入試合格をめざすみなさんへ
【AO受験生の声】

 同志社大学
Doshisha University

同志社大学の AO入試とは

同志社大学のAO入試は、学力のみを重視する選抜方式ではありません。同志社大学で学びたいという意志を持ち、かつ学力試験では評価できない多様な能力、大きな可能性を秘めている学生を積極的に迎え入れようとする能動的な選抜方式です。同志社大学のAO入試は、いわゆる一芸一能入試とは大きく異なります。一芸一能でいかに優れていても、総合的な評価の結果不合格になる場合もあります。つまり、AO入試は知識の多寡だけを問うのではなく、ましてや一芸一能だけを評価するものでもなく、一人ひとりの能力や個性と真の学力を適切に評価し、学習意欲や将来的な可能性までもを含めて総合的に評価する選抜方式です。本学で勉強することを強く望み、独自の考えを持ち、自ら問題を発見し、それを解決する能力を有している生徒、すなわち“自ら学び、自ら考える”自治自立の人物を求めています。同志社大学のAO入試は、大学教育を受けるに十分な基礎学力があり、出願資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる公募制の自己推薦入試です。第一次審査(書類)と第二次審査で合格を判定します。提出書類をひとつひとつじっくり時間をかけて審査し、さらに直接会ったうえで、意欲・能力・適性・目的意識や将来性等を多面的・総合的に評価し、合格者を決定します。

入試結果 (2023年度入試)

学部	学科・コース	募集人数	志願者数			第1次審査合格者数			最終合格者数			最終倍率
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
商学部	商学科 フレックス複合コース	10名	11名	18名	29名	6名	10名	16名	3名	7名	10名	2.9
文化情報学部	文化情報学科	15名	22名	36名	58名	10名	24名	34名	4名	16名	20名	2.9
生命医科学部	医情報学科	2名	2名	3名	5名	1名	3名	4名	1名	3名	4名	1.3
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	4名	21名	21名	42名	3名	4名	7名	0名	4名	4名	10.5
合計		31名	56名	78名	134名	20名	41名	61名	8名	30名	38名	3.5

各学部それぞれの、伝えたいこと、求めること

商学部 Faculty of Commerce

商学科 フレックス複合コース

国内外のビジネスで活躍

自治自立の精神を涵養し、国際感覚豊かな人物を育成する、同志社の精神。商学部ではこの基本理念に基づいて、商学に関連する知識を背景に、国際社会において「良心を手腕に」さまざまな問題を解決できる人物の育成を目指しています。

求める学生像

- 自由な発想を持ち、高い語学力を備えている学生
- 問題意識に基づいて行動する意欲にあふれている学生
- 日本や世界で繰り広げられるビジネス活動に対して大いに興味と関心を抱いている学生



生命医学部 Faculty of Life and Medical Sciences

医情報学科

情報という視点で分子・生命・ヒトに迫り、未来の医療技術を創る

生命および医療に関連する物理学、化学、脳神経科学など幅広い分野について学びます。さらに、情報工学・電子工学の知識と技能を総合的に習得し、脳の情報処理機構の解明、化学・電子技術を用いた生体情報の取得、それらの医用機器開発への応用など未来を開拓する志を持った人物を養成します。

求める学生像

- 医情報学科の教育研究に対応できる十分な学業成績を修めている学生
- 何かに真剣に取り組むことで優れた業績を達成した学生
- 目標を成就する積極的かつ自発的努力をもって医情報学科の教育目標に対して取り組むことができる学生



文化情報学部 Faculty of Culture and Information Science

文化情報学科

文理の枠を超えた柔軟な発想力

文化と人間に関する捉えがたい現象に対し、文理の枠にとらわれない柔軟な発想により、データサイエンスの知見と文化領域の幅広い知識に基づいて、科学的探究を行うことができる。本学科ではそんな人物を養成します。

求める学生像

- 人間をとりまくさまざまな文化現象に対する幅広い関心と探究心を持つ学生
- 文理の枠にとらわれず新しい価値を見つけようとするチャレンジ精神がある学生
- 共同作業を通して問題発見・問題解決に取り組む意欲がある学生
- バランスのとれた基礎学力と総合的な理解力を持つ学生
- 文化と人間に関わる知識を活用して社会に貢献したい学生



スポーツ健康科学部 Faculty of Health and Sports Science

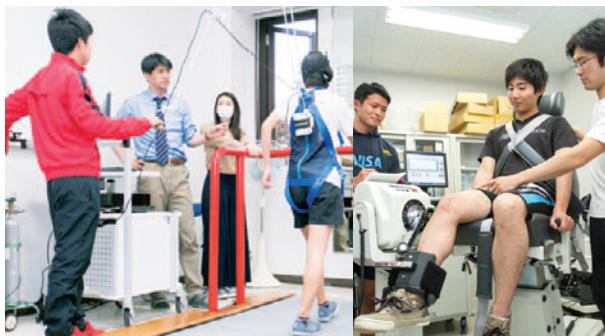
スポーツ健康科学科

専門領域とその周囲まで好奇心いっぱい

健康とスポーツ活動を中心に、それらを取り巻く社会環境に関する知見や理論、スポーツ健康科学を総合的・体系的に修得。そのうえで、さまざまなフィールドにおいて、専門的な立場から健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に貢献できる。そんな多様な人物の養成を目的としています。

求める学生像

- スポーツを「する・観る・支える」のいずれかにおいてスポーツに深く関わった経験を踏まえて
- スポーツ健康科学に関する専門的知識・技能を修得するために必要な基礎知識や外国語の読解・表現能力などを有する学生
- 既成の事実や価値観にとらわれることなく、自ら課題を見出し、探求できる学生
- 様々な立場にある人々の意見を取り入れ、相互理解を深めようとする学生



AO ~AO入試座談会~ TALK

AO入試学生座談会ムービー
右記のコードからご覧いただけます。



Theme
01

受験前、どうしてた？

01/ クラブ活動や課外活動をする中で 自分の進みたい学部が見えてくる。

慎：高校在学中は、どんなことに取り組んでた？

上野：私は理科部に所属して、プログラミングやロボット製作に没頭してた。他にも学内外のボランティア活動に参加して、施設訪問も体験して視野が広がったと思うよ。

徳永：私は陸上部。部活に打ち込んだからこそわかるスポーツの良さやスポーツの力を実感できた。

石崎：高校では皆でプロジェクト活動をするクラスにいたから、障がい者福祉やコミュニケーション、興味を持ったことはすぐ行動に移したかな。あとは舞台とかダンスの授業にも積極的だった。

慎：別々の高校にいたけれど、4人とも自主的に行動するタイプだね。私も生徒会活動とか、社会問題に取り組む団体を立ち上げたり、高校という場をベースに頑張ってた。課題解決という視点で学部選びを考えた時に、マーケティングや消費者行動に興味を湧いて、商学部志望になった。皆は、高校時代の取り組みと学部選びってリンクしてる？

上野：プログラミングとボランティアに打ち込んでいたから、文理融合的な進路を探る中で、同志社の文化情報学部はまさにぴったり。

石崎：私も福祉とコミュニケーションに興味がありつつ理系に進みたい私にとって、学際的に学べる生命医科学部は最適だと思った。

徳永：スポーツ経験を重ねるうちに、スポーツを通じた国際支援やスポーツ社会学に興味を持つようになって。だから、スポーツ健康科学部は学びたいと思える学部だったよ。

02/ 自分らしさを生かせるのがAO入試。 日々の積み重ねがしっかり評価される。

慎：高校1年の時に、学部はまだ決めていなかったけど、大学は同志社！って思ってた(笑)。だから成績も大事だと思って勉強は頑張ってたよ。周りから自然にAO入試のことを知って、語学の資格も生かせるなら有利だと思ってAO入試での受験を決めたんだよね。

徳永：私がAO入試を知ったのは、たまたま同志社のサイトを見てた時。部活はもちろん、海外に行った経験も強みにできるから、AO入試でスポーツ健康科学部に挑戦しようって。

上野：文化情報学部でAO入試を実施してるって知ったのは高校2年の秋。その日の試験時間だけで合否が決まるスタイルが苦手だから、時間をかけて作ったものを評価してもらえるAO入試を迷わず選んだよ。

石崎：ってことは私が一番遅いかな？ 同志社にAO入試があると知ったのは高校3年になる春休み。受験を決意したのは、したいことを見つけて取り組んできた自分をアピールできると思ったから。

POINT

- ・高校で興味をもって取り組んだことが、学部選びのヒントに。
- ・一発勝負ではなく、積み重ねた日々を評価してもらえる。

商学部
商学科 フレックス複合コース
慎 珠理さん
1年次生

文化情報学部
文化情報学科
上野 叶恵さん
1年次生

生命医科学部
医情報学科
石崎 みくさん
1年次生

スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
徳永 結愛さん
1年次生

Theme
02

受験対策は、何してた？

01/ エッセイはオリジナリティ。
「自分だから書けること」が、必ずある。

上野：私はAO入試の準備をし始めたのは、高校2年の冬くらい。

石崎：私も同じくらいの時期かな。

慎：私は遅くて、要項が発表された高校3年の6月くらい。



徳永：私はさらに後で、高校3年の夏休み前くらいだったかも。

上野：AO入試の出願は9月だったけど、エッセイ、志望理由書、自己紹介書と、提出書類は多いよね。

慎：商学部のエッセイのテーマは商学部らしく「ビジネスに関連したテーマ」。私は「現代ビジネスに潜む人権問題」について書いた。間違った情報を書かないように確認をして、データだけでなく、フェアトレードに携わる方にアポイントを取って、取材した内容も入れたよ。

石崎：取材を入れると説得力が出るよね。生命医科学部のテーマは自由だったから「大学で取り組みたい研究」にした。音声言語での会話にハンディを持つ障がい者のコミュニケーション支援の開発をしたいと書いたんだよね。私もイベントで知り合った障がい者の家族の方へのインタビューをエッセイ中に盛り込んだよ。

上野：その人だから書けることって、大事だと思う。文化情報学部も「自由に2000字」で、小・中・高とキリスト教系の学校で学んで体験してきた「隣人愛」を同志社の掲げる「良心教育」に絡めて書いたよ。周囲からはテクノロジーとか文化について書いた方が良くなって言われてた。でも、自分しか書けないテーマになったと思う。

徳永：経験は重要だね。スポーツ健康科学部は「スポーツに関連したテーマ」。「スポーツを通じた国際支援」について、高校で参加した国際支援プログラムの経験を中心に書いたよ。ただ、自分の思いを裏付けるデータがない分、論理的な組み立てをしっかりとしたかな。

02/ 自己紹介書と志望理由書、
自己アピールのための資料
思いの丈を、書けるだけ書こう。

石崎：エッセイは文字だけだから、自分の考え方やプランはマインドマップ風のチャート図にして「自己アピールのための資料等」に入れたよ。

慎：私はインターナショナルスクールに通っていたり、多国籍の人と関わる経験が多かったから、自己紹介書では多様性の価値観をアピールした。

徳永：私も国際経験をアピールした。それから、部活で獲得した賞状など、出せるもの全てを出したよ。

上野：同志社が高校生向けに開催している「志コンテスト」で受賞した賞状は推せるので提出（笑）。プログラミング作品もCDで提出。一番悩んだのは志望理由書かも。誰が読んでもわかりやすい表現をどうするかでずっと考えた。「なぜ同志社のこの学部か」という点だけは明確にしようと心がけて……でも油断すると字数が増えて。

慎：同じ！ 軸をぶらすことなく文字を削るのが大変。

徳永：アドミッションポリシーとの一致を意識しつつ、「これを学びたい」「こんな人になりたい！」を全面に押し出したよ。

石崎：こんな経験があるから応募したと伝わるように、時系列を意識して、過去・現在の直線上に同志社での未来を書いたかな。

慎：作成した書類は、先生、家族、友達含め、周りにいる人全員に見てもらった。アドバイスをもらうことも、すごく大事だね。





03/ 二次審査の会場は 未来の先生と出会う場所。

徳永: スポーツ健康科学部の二次審査は、小論文とプレゼンテーションを含む面接で、なんと私はトップバッター(笑)。会場も緊張感が漂っていたけれど、話すことは得意だったから、緊張感を和やかな空気を持っていくことを心がけてた。

上野: 文化情報学部は、プレゼンテーションの後に口頭試問がある形式。審査会場には黒板とホワイトボードしかないから、図や絵を描き込んだスケッチブックを持参して、フリップ芸のように次々にめくって解説したよ。ちなみに私も一番最初だった。

石崎: 生命医科学部は、希望すれば5分以内をプレゼンテーションに充てられるんだけど、基本は口頭試問と面接。問題用紙を渡されてホワイトボードを使って解いたよ。その後の面接は意外なほどくだけた雰囲気です、安心して自分を出せた。

慎: 商学部は5分間の英語のプレゼンテーションがあるんだけど、資料の持ち込みは禁止。だから身ぶり手ぶりを最大限に使った。続く面接は、試験と思えないほど和やかな雰囲気でした。面接は英語のプレゼンテーションに関する質問にも備えてた。皆はどんな対策してた？

徳永: 小論文は、まずスポーツ関連の新聞記事を大量にスクラップ。そこから国語の先生が出題・私が書く・先生が添削のサイクルを繰り返して。プレゼンテーションはPowerPointを何度も作り直し、数多くの先生にプレゼンを見てもらって発表の練習をしていた。

上野: 志望理由に関する質問に備えて『AERAムック 同志社大学 by AERA』(朝日新聞出版)で同志社に関する情報をたくさん集めた。時事ニュースもしっかりチェックしておいた。自分から話すことに慣れるために、先生や親に面接練習をしてもらったよ。

石崎: 口頭試問ではどんな問題が出るかわからないから、理数系の分野を幅広く見渡しながら勉強していった。面接に備えて先生方の論文を検索したりもしたよ。

04/ 当日に必要なのは、自信。 楽しむくらいの心構えで。

慎: 振り返って思うんだけど、面接の場では自信を持つって大事だと思う。萎縮したら魅力的に見えないと思う。

上野: 試験日が近づくほどに自信がなくなってくる時があるけど、これまで頑張ってきた日々があるんだから、「多分大丈夫!」って言い聞かせることも受験には大切だと思う。

徳永: 私も面接そのものの練習はしていないかな。自分がしてきたことをひとつずつ思い返して、自信に変えていた気がする。

石崎: 話すことを丸暗記してロボットみたいに話すのも面接の悪い例だね。その対策として、伝えたいことを文章ではなくキーワードで頭に入れて、その場で柔軟に話そうと決めてたよ。大学の先生と話せる貴重な機会を楽しもうという気持ちで臨んでた。

POINT

- ・エッセイ・自己紹介書・志望理由書を作成する際は「自分らしさ」と「客観性・正確性」のバランスを大切に。
- ・自己アピールには、文字以外にも、賞状・図・絵・写真・デジタル情報なども積極的に使っていこう。
- ・二次審査は、ありのままの自分を出そう。





Theme
03

合格そして入学。 今、こうしてる!

01/ 合格までの日々は長いけれど 合格後の充実した時間もたっぷり。

徳永: 合格発表って11月だったよね。嬉しかったよね! 合格までの日々で苦労したのってどんな部分?

上野: たまに迷宮に入ることがあったかな。一般入試なら勉強した分、ある程度結果はついてくる。でもAO入試だとどれだけ時間をかけてもうまく伝わらなかったら不合格になってしまうのかなって。そんな時はできるだけメモをとって頭の中を整理してたよ。

石崎: わかる! ずっと自分との対話だもんね。私は付箋で課題ひとつずつ見える化してた。すると安心感が湧いてくるんだよね。

慎: ここまでしたら完了っていうゴールがないからね。私は白紙に殴り書きしたことを少しずつまとめていった。「書き出す」のが鍵だね。

徳永: 私はプレゼンテーションが大きな壁だった。スライドごとにミリ単位で図形の大きさを揃えたり、何を聞かれても答えられるように準備したり。大変だったけどそんな努力が実を結んで合格できたんだよね。合格後卒業までの数ヵ月間は、どうやって過ごしてた?

慎: アルバイトと資格の勉強。もちろん、残りの高校生活を楽しみたいから、友達とも思いっきり遊んだよ。

上野: 今が一番自由な時間かもって思って、本をまとめ買いして読んだり、美術館に行ったり、絵を書いたり。追加で授業を履修してプログラミングを勉強したり。卒業アルバム制作も担当してた。

石崎: 似てる(笑)! 受験期にできなかった絵画・読書三昧の日々。地元を離れるから友達や家族との時間も大切にしたよ。

徳永: 皆パワフルだね。私も一般入試を受験する友達の悩みを聞いたり、後輩とダンス作品を創ったり。英語以外の外国語の勉強もしてた。

02/ AO入試で培った力は 大学や社会でも求められる力。

石崎: AO入試に合格して、晴れて同志社大学の学生となったよね。私は生命医科学部を目指してたわけだけど、14学部もあっていろんなタイプの学生と交流できるし、副専攻で他学部の科目も履修できる。視野も可能性も広がっていくのが、改めて良いと思ってる。

上野: 海外からの留学生も多いよね。私は小中高一貫の学校出身で、すごく狭いコミュニティで育ったから、いろんな背景を持つ人に出会える環境がすごく新鮮!

慎: 国際色豊かで、学生数も多くて、学ぶ意欲の高い人が多いのも励みになるよね。発見がいっぱいで、自分も頑張ろうって思える。

徳永: 先生方の専門分野も多彩で、先生方から得た知識を皆で共有できるのが楽しい。国際支援を目指す私にとっては、第2言語の選択肢が幅広くいろんなチャレンジができる点は大きな魅力。あとは授業でもプレゼンテーションや課題提出が多いけれど、AO入試を通じてプレゼンスキルや論理的な文章の書き方がある程度身につけているから、すごく学びを楽しんでるよ。

慎: 1年以上前からシラバスを熟読してたから、学習計画を立てる時も学びたいことをしっかり定められた。

上野: そうそう。学部が具体的にどんなことに取り組んでいるかは去年にリサーチ済み。自分のビジョンもはっきりしているから、入学時に学びで悩むことは少ないよね。

石崎: AO入試経験者は、課外活動に取り組んでる経験も活かせると思う。大学ってチームで協調しながらも、自分から動く力がすごく問われる場所だと思う。そういう積極性を受験期に培えるAO入試って、本当に良い受験制度だなんて心から思えるよね。

POINT

- ・合格から高校卒業までの数ヵ月は、自分へのごほうび時間。
- ・AO入試で培った知識やスキルは、大学でフル活用できる。

AO入試学生座談会ムービー
右記のコードからご覧いただけます。





文化情報学部
文化情報学科

上野 叶恵さん 1年次生

同志社大学で学んでいること

高校在学中から学び、興味を持っていたデータサイエンスやプログラミングの基本的な知識を身につけています。また、さまざまな授業を通して、事象を分析するための基本姿勢についても学んでいます。中でも「文化計量学入門」は、物語や音楽といった文化を計量する具体的な手法や、哲学や論理学の体系など、学問の根源にふれる興味深い授業です。

受験中の息抜き法

どうしても文化情報学部に進学しなかったのも、もしAO入試が不合格なら公募推薦や一般入試にも挑戦するつもりでした。だからAO入試の息抜きは一般入試の勉強になっていました。特に大好きな世界史を勉強するのは楽しい時間でした。それ以外では、「美術館に行く」「演劇を見る」といった合格後の楽しい時間をイメージして、受験期を乗り越えるモチベーションにしていました。

Message
for you

将来や自分と向き合う苦しい時間は、きっと入学後も将来にも役に立つと思います。自分に自信を持って頑張ってください。



生命医科学部
医情報学科

石崎 みくさん 1年次生

同志社大学で学んでいること

障がい者のコミュニケーション支援をしたいと思ったのが、生命医科学部に進んだ理由です。今、そのベースとなる自然科学基礎や電子工学を学んでいます。1年次から実験の授業があり、理解が深まります。レポートを書く機会も多くAO入試で培ったスキルが生きています。提出して終了ではなく、フィードバックを受けられるのも毎回楽しみです。

受験中の息抜き法

友達と助け合っていました。お互いの長所を言い合うと、気づかなかった自分の長所がわかり、良い気分にもなれて一石二鳥です。友達と一緒に勉強をすることもありました。時には一緒に食事や映画や音楽を楽しんだりすることもありました。一人で勉強ばかりだと気持ちが塞いでしまうので、リフレッシュのためにも、友達と遊ぶ時間は必要だと思います。

Message
for you

AO入試を受験する皆さん、皆さんの個性と経験を活かして存分に頑張ってください。応援しています。



スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科

徳永 結愛さん 1年次生

同志社大学で学んでいること

幼い頃からスポーツに親しみ、スポーツを通じた国際支援に興味を持って入学しました。今は身体のしくみや、スポーツを社会現象と捉えるスポーツ社会学について学んでいます。特に印象深い授業は「スポーツ政策論」。スポーツと行政、スポーツと企業、現代社会におけるスポーツを中心として政策科学の立場から考えるもので、スポーツの可能性を知ることができ、興味深く受講しています。

受験中の息抜き法

おいしいものをよく食べ、しっかり寝ること。とはいえ、受験期は感情のアップダウンが激しく、それをコントロールすることにも疲れることがありました。だから落ち込む時はとことん落ち込んでOKだと決めていました。自信を回復するのに効果的なツールは、志望理由書等を作成するために書いていたノートです。読み返しているうちに、「大丈夫」と思えます。

Message
for you

AO入試では自分に自信を持つことが大切なので、今までの努力を誇りに頑張ってください。



商学部
商学科 フレックス複合コース

慎 珠理さん 1年次生

同志社大学で学んでいること

商品企画に興味があり、マーケティングや消費者行動論を学びたくて同志社大学に進学しました。今は、商学の基礎を幅広く学んでいるところです。入学直後の春学期には「アカデミックリテラシー」という少人数授業を履修。グループワークやレポートの課題などが多く、AO入試で培った力が活かされました。この授業で友達がたくさんできたのも嬉しかった出来事です。

受験中の息抜き法

人と話す時間を大切にすること。友達もそうですが、どんなに忙しくても家族との時間を作り、話すように心がけていました。「自信がなくて」と口に出すだけで楽になり、励ましてもらえれば少し元気になります。会話の中で発見や解決策が見つかることもあるので、会話が私にとっては大きな息抜きの時間でした。話すことで、モチベーションアップにもなったと思います。

Message
for you

自分自身の軸を持って伝えることが大切だと思います。